

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 8 月 22 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程
氏名	浅見真生

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
新潟県 妙高高原
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習 (無雪期)
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 8 月 1 日 ~ 平成 26 年 8 月 4 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京大ヒュッテ (杉山茂氏)
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

京都大学笹ヶ峰ヒュッテにおいて、4日間の登山・サバイバル実習を行った。学生はPRI4名、WRC1名、ASAFAS1名の計6人が参加し、炎天下の下界から離れた妙高高原の冷涼な環境の中、火打山ピークハント及び、ツェルトを利用したビバーク体験やロープワーク講習等行い、充実した実習となった。なお、今回の実習は参加学生が多い為前後半2班に分けられており、本報告は後半のものである。

実習初日は、午後からヒュッテ周辺を散策し、妙高高原が開拓され現在の様な放牧地の広がる景観になるまでの歴史を杉山先生にお話いただいた。例年と比較して、蝶の数が少ないという話であったが、アサギマダラやヒョウモンチョウがヒュッテ前庭のコオニユリや夏の花に集まっており、トチの木や白樺等の植生も観察することが出来た。夜には地図読みの講習を行い、火打山や周辺の地形を確認し地図記号や登山ルートを確認した。天候に恵まれ、夜には開けた前庭で満天の星空を眺めることが出来、流れ星や天の川も見る事が出来た。



写真 1：ヒュッテ周辺の散策



写真 2：京都大学笹ヶ峰ヒュッテ

翌日は、地図読みの実地訓練として道のない涸沢を3時間ほど歩き、方向の決定や地形の覚え方植生の変化を学んだ。雪深い土地の特徴として、雪崩の痕跡や雪の重みによって変形した樹木が数多く観察され、日照が十分にあったことでアサギマダラを含む大型の蝶が数多く見られた。多くの動植物を観察することが出来た実習中、特に印象深かったのがこの日観察した、哺乳類の糞に集まる昆虫と大型の猛禽類 (ハチクマ?) である。糞中には甲虫や蜂の仲間と思われる体の一部が数多く含まれており、強い匂いを発していたが、そこに集まるゴミムシや蝶は美しかった。また、笹ヶ峰の主である杉山先生でも一度しか見たことがないイヌワシは残念ながら今回見ることは叶わなかったが、トビ以外の大型の猛禽を観察できたことは大きな収穫であった。

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真 3 : 糞に集まるコムラサキ



写真 4 : ハンノケンモン?の終齢幼虫

3 日目は火打山登山を行った。総行動時間が 12 時間にも及ぶ登山となったが、登山道は分かりやすく休憩を多くとったことで、登山に慣れない学生も体力的に無理なく登山を楽しむことが出来たように思う。頂上付近には残雪が僅かに残っており、インド人留学生が人生初の雪だと興奮していたこともよい思い出である。登りは小雨交じりの曇天、帰りは晴天と穏やかな天候の変化があり、山の異なる表情を見ることが出来た。特に、高谷池ヒュッテからすぐの高層湿原（天狗の庭）は美しく、霧の中に煙る湿原は高山植物に囲まれた異世界のような風景であった。何度山に登っても、高山植物の名前はすぐに忘れてしまうのであるが、そこに集まるハナバチやアブ、カナブンといった昆虫が観察できるのは登山中の大きな楽しみの一つで、今回の登山もその例にもれず、興味深いものであったし、写真撮影に精通した学生から撮影手法を学んだり、野生のキイチゴやブルーベリーをつまんだりの楽しい山行となった。その反面、パーティの先頭に行く杉山先生とは離れてしまい、解説を聞き逃してしまったようにも感じたが、今回実習に参加していた教員は杉山先生一人であり、登山中の会話の多くは離れてしまうとすぐに成立しなくなってしまうので、学生 6 名対教員一名（+PWS 関係者 1 名）の人数かつ、登山経験のある学生が複数いたことでパーティの構成は丁度良かったように感じた。また、日帰り登山は少ない荷物で登れるという利点もあるが、京都や犬山から足を延ばして妙高高原まで来たことを思えば、山中泊を含み妙高山と火打山双方を巡る山行でもフィールド実習として実りあるものになったのではないかと考えた。



写真 5 : 沢で休憩



写真 6 : 噴気を上げる焼山



写真 7 : バッタ、ヤマアジサイ

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

最終日には、使用したヒュッテの清掃を行い、ツェルトを用いたビバークについて簡単に学んだ。テントは高価で学生にはなかなか手の出るものではないが、比較的安価なツェルトが防寒やビバーク、荷物の運搬、傷病者の救助にも利用することの出来ることを知った。



写真 8: 風雨をしのぐ姿勢

### <まとめ>

フィールドワークを学ぶ機会となったが、サバイバル技術特にロープワークやビバークの技術に関しては多くの実習生にとって初めて接するものであり、実際に野外で活用出来る段階にはまったく達していない。特にロープワークについては紹介程度であったので、個人的なスキルアップが必要であると感じた。

全体としては、キツネや蝶を見たり、ワイルドベリーを食べたり、笹ヶ峰の自然を満喫することの出来た実習であった。滞在中の食事を皆で準備し、ベジタリアンの参加者と一緒に食べるにはどう調理したらよいか悩んだこともよい思い出である。

### 6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS の支援を受けて行われました。登山技術、及び美味しい食事の作り方についてご教授頂いた杉山先生、引率して下さった PWS の辻本さん、PWS 支援室の皆さまに感謝申し上げます。